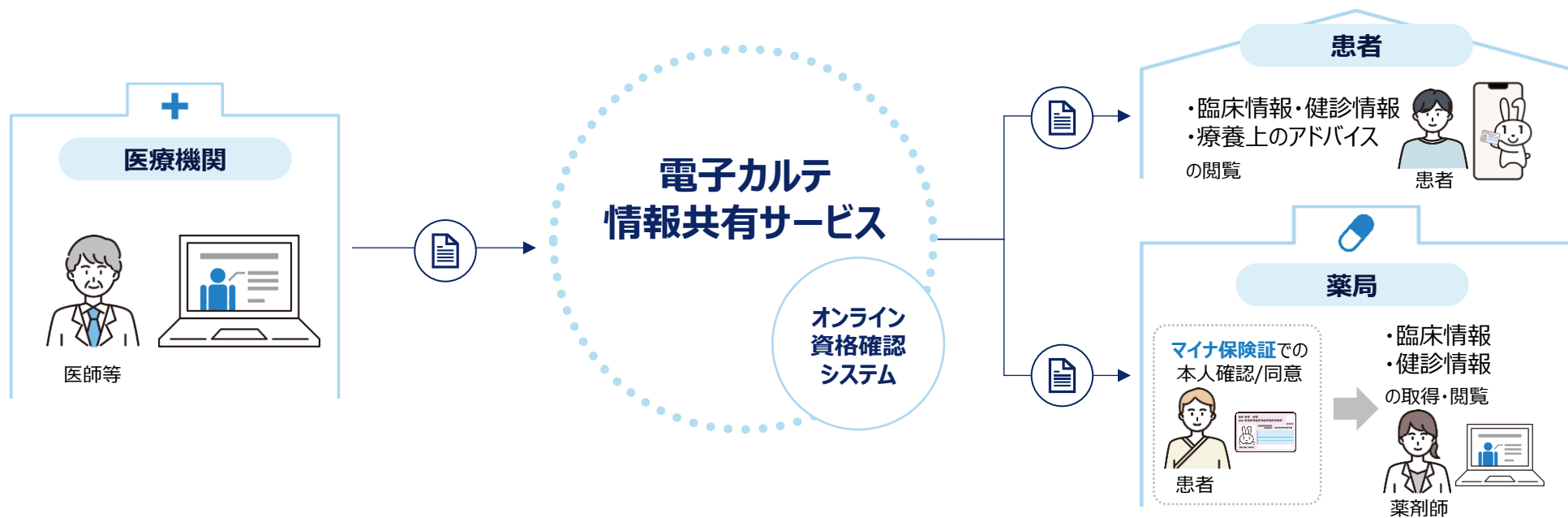


電子カルテ情報共有サービスで出来ること

電子カルテ情報共有サービスは、医療機関で記録されている電子カルテ情報のうち、医療機関が電子カルテ情報共有サービスを導入後、登録を行った**臨床情報**と**健診情報**が全国の薬局において閲覧できるようになる仕組みです。



薬局で新たに閲覧できる情報

今まで

オンライン資格確認システムで閲覧できる情報

- ・ 薬剤情報
- ・ 特定健診情報
- ・ 診療情報
- ・ 手術情報

電子処方箋管理サービスで閲覧できる情報

- ・ 処方・調剤情報

これから

NEW 臨床情報

- ・ 傷病名
- ・ 検査情報
- ・ 感染症情報
- ・ 薬剤アレルギー等情報
- ・ その他アレルギー等情報

【検査値の一例】
・ クレアチニン (Cre)
・ AST、ALT
・ 血糖値、HbA1c
・ カリウム (K)
・ ナトリウム (Na)

NEW 健康診断結果報告書

【健診項目】

- ・ 従来の特健診項目
- ・ 業務歴
- ・ 胸部エックス線検査
- ・ 喀痰検査 等

従来の特健診情報よりも健診結果の反映が早いいため、必要な情報をタイムリーに確認できます。

共有される情報の詳細は[電子カルテ情報共有サービス概要案内](#)をご覧ください。

電子カルテ情報共有サービスのメリット

電子カルテ情報共有サービスを通じて、薬局で利活用できる患者の情報が増えることで、**医療安全性の確保や、患者とのコミュニケーションの質向上**につながります。施設状況に応じて、利用開始に向けた準備をお願いします。

処方監査における医療安全性の確保



検査情報やアレルギー情報等を活用して処方監査を行い、必要に応じて医師に疑義照会を行うことで、**薬物治療のさらなる安全性確保が実現**できます。

服薬指導をはじめとした患者とのコミュニケーションの質向上



傷病名や検査情報等を踏まえた服薬指導により、**より適切な副作用の確認や薬効評価が可能**です。

患者状態に応じたアドヒアランス支援や、食事・運動等に関する具体的な助言も可能となり、**患者に寄り添ったコミュニケーションの実現が期待**されます。

運用開始に向けた
準備のお願い

電子カルテ情報共有サービスの運用開始にむけて、 レセコン・電子薬歴システムベンダと調整をお願いします！

患者情報の収集による適切な薬物治療の実施にむけて、検査情報等の活用について、事前のご準備をお願いします。運用準備については、[薬局向け運用マニュアル](#)をご参考ください。

(別紙) 薬局での検査情報等の活用事例

薬局における処方箋に記載された検査情報等の活用に関する研究をご紹介します。(厚生労働省医政局医療情報担当参事官室にて一部要約)

● 医療薬学40(9) 530—536 (2014) 五十嵐敏明ら 院外処方せんを介した臨床検査値情報の共有とその有用性評価 ●

- 福井大学医学部付属病院においては、2011年4月より、臨床検査値や薬物血中濃度の測定結果を院外処方箋に印字し、保険薬局に患者情報の提供を行ってきた。臨床検査値を表示する対象薬剤は、添付文書上の警告欄に必要な検査が記載されている薬剤や検査結果により用法・用量の調節が必要となるものとした。
- 2012年1月～12月の間に近隣薬局で受け入れられた処方箋を用いて解析を行った。処方箋90,964枚のうち、処方監査後に検査値に関連した疑義照会や患者指導に発展した事例は延べ332件(0.4%)、臨床検査値の件数は396件であった。臨床検査値の項目は、プロトロンビン時間－国際標準化比(PT-INR)が104件と最も多く、次いで血清クレアチニン値が91件、血清カリウム値が51件の順であった。少数ではあるが、評価の難しい薬物血中濃度の測定結果も利用されていた。医師への疑義照会に発展した症例は18件あり、その内7件は薬剤師の提案が受け入れられていた。近隣薬局へのアンケートでは、臨床検査値の印字は、用量変更による処方意図の把握(90.5%)や適正用量の確認(71.4%)に役立つとの声が多く見られた。

● YAKUGAKU ZASSHI 144, 1095–1099 (2024) 石井伊都子 院外処方箋の検査値を活用した地域との連携とアウトカム ●

- 千葉大学医学部付属病院では、2014年10月より、院外処方箋に臨床検査値の付記を開始した。
- 同病院では、16項目の固定検査値と同病院薬剤部が開発した医薬品別検査値が記載されている。16項目の固定検査値は、「重篤副作用疾患別対応マニュアル」における自覚症状で早期発見できない副作用や自覚症状よりも先に臨床検査値が変動する副作用の指標となるものを取り上げた。
- 検査値を付記する前と比べて付記した後は、1年間で4件程だった検査値に関する疑義照会が付記1年目から600件を超え、疑義照会中の約1割を検査値関連が占めるに至り、処方変更に至った数も年々増加した。疑義照会の発端となる検査値は腎機能に関連するもの、疑義照会の目的としては副作用の未然回避が多かった。

● 医療薬学 49(9) 331-338, 2023. 渡邊大貴ら 臨床検査値に基づく薬局薬剤師からの疑義照会が患者アウトカムに与える影響 ●

- 旭薬みどりがおか薬局において、旭川医科大学から出される二次元コード付き検査値に基づく検査値関連の疑義照会がどの程度処方変更や患者アウトカムの改善につながっているかを検討した。2015～2020年に応需した処方箋について、旭川医科大学病院からの検査値情報提供前と後に分けて集計し、検査値に基づいた疑義照会かどうかを後ろ向きに調査した。
- 旭川医科大学病院からの院外処方箋は臨床検査(血液検査および生化学検査)のうち主要な15項目の検査値の推移を確認できるようになっている。検査値・二次元コードが印字される前と比べて印字された後は、疑義照会発生率は印字前の36.5倍であった。院外処方箋への検査値・二次元コード印字開始後の検査値関連疑義照会については腎機能関連(eGFR、CRE)の疑義照会件数が最も多く、約6割を占めた。腎機能に関する疑義照会を解析した症例のうち腎機能障害に該当する薬剤に関連する症例を分析したところ、疑義照会で処方変更がなされていない群より処方変更がされた群の方が有意にeGFR値が改善していた。